

# 釧路地区 教育経営研究会

- 1 目的 学校運営上の諸問題について、全道の情勢及び釧路地区の実情を交流し、道小・道中校長会の活動に反映させ、もって各学校の経営充実に資する。
- 2 主催 釧路校長会 釧路市小中学校校長会
- 3 主管 釧路校長会
- 4 後援 北海道教育庁釧路教育局 釧路管内町村教育委員会連絡協議会 釧路市教育委員会
- 5 日時 令和4年 8月25日(木) 13時より
- 6 会場 オンライン開催(配信本部・釧路町立富原小学校)
- 7 研究主題 「釧路の風土に学び、心豊かにたくましく生きる力を培う学校経営の推進を目指して」
- 8 日程 12時45分～13時00分 受付  
13時00分～13時10分 開会式  
13時10分～13時40分 道小、道中役員による教育情勢説明・質問事項回答  
13時40分～14時00分 提言A  
14時10分～14時30分 提言B  
14時30分～14時50分 質疑応答(チャット)、閉会
- 9 開会式 主催者挨拶 釧路校長会会長 佐藤 毅(釧路町立遠矢中学校長)  
来賓祝辞 新型コロナウイルス感染症対策のため来賓はなし

## 10 全体会①(オンライン)

### (1) 活動・情勢報告

北海道中学校長会 会長 野崎 均 氏(登別市立緑陽中学校長)

- ・道小、道中の総会研修会、理事研修会などの会議・教育研究大会に係る活動について
- ・全国連合小学校長会、全日本中学校長会の総会研修会について
- ・全道会長研修会、小中合同事務局研修会、道教委との意見交換会について
- ・北海道小学校校長会教育研究大会、北海道中学校長会研究大会について
- ・全国連合小学校長研究協議会、全日本中学校長会研究協議会について
- ・道小、道中の組織運営について
- ・ICT・GIGA スクール構想関連について
- ・働き方改革、教員確保、教員育成について
- ・学び、教育課程、小中一貫について
- ・新型コロナウイルス関連について

### (2) 釧路地区の質問・要望事項に対する回答

北海道小学校長会 幹事 下山 弘美 氏(札幌市立新琴似北小学校長)

北海道中学校長会 幹事 小泉 寧 氏(南幌町立南幌中学校長)

〈質〉 期限付教諭や産休・病休等に伴う臨時的任用職員の確保や確実な配置に向けての対応について

☞ ・ハローワーク、HP、民間の情報誌等、情報媒体を活用した募集。

・教員養成系の大学に訪問し、ポスターやチラシの配布。

・教員免許更新制が発展的に解消されたことから、育児介護で辞職された元教員や教鞭をとられていなかった方に教員として勤務いただけるよう周知し、欠員の解消に努める。

〈質〉 GIGA スクール構想における ICT の活用にかかる地域間格差を解消するための ICT 環境(ハード、ソフト面の整備と更新の予算措置や ICT サポートのスタッフの配置等)について

☞ ・ICT の環境整備については、市町村・市町村教委に働きかけを行うとともに、財政措置の拡充について国に要望していく。(指導者用コンピューター、ICT 支援員の配置、端末の更新に係る恒久的な財政措置など)

- ・ICTを活用した学びを進めるためにGIGAスクール運営支援センター整備事業を活用し、組織の強化を図っていく。

〈質〉中学校における通級指導教室の設置や特別支援教室の基礎定数の見直し等について

- ☞・通級指導加配について、平成29年度から10年間段階的・計画的に教職員定数の措置を図っていきたい。通級指導教室が必要な指導生徒数の増加を踏まえ、教職員の適正な配置や、中学校における通級指導教室の開設に向けて、加配措置の拡充を国に要望していききたい。
- ・特別支援教室の定数措置の充実について、国に対して要望していく。
- ・自校通級・他校通級・巡回指導、国は、2026年にむけ児童生徒13名に教員一人の配置を進めているが、13人以下の他校通級は負担（保護者による送迎、中学校であれば進学の問題等）が大きいことから自校通級の充実を図るため、道教委と校長会との連携を図っていききたい。

## 11 全体会②

### (1) 提言A 釧路町立知方学小学校 森口 暢宏 校長

「教員の資質能力の向上を目指す研修活動における校長の役割について」～初任段階教員の育成を中心に～

- ・教員に求められる資質能力や、町内9校の初任段階教員を対象とした授業づくりや校内研修に関するアンケートの結果分析を中心に考察
- ・授業づくりや評価について、初任段階教員の悩みや課題を浮き彫りにした上で具体策を提案
- ・教材研究の仕方や指導案作成などは、他の教員の授業参観を増やし、先輩教員の助言の機会を設けるなど、意図的に指導力の向上を図る必要性があることを強調
- ・校長の役割として、メンター研修や他の教員とのかかわり、日常の授業観察などを提示
- ・教員のやりがいである児童生徒の成長実感や成功体験のため、管理職は研究と修養に励む必要性を示すとともに、その支援を絶えず続けなければならないことに言及

### (2) 提言B 釧路市立桜ヶ丘小学校 土居 慎也 校長

「小中連携プロジェクトの取組～子どもの学力向上を目指して～」

- ・釧路市小中連携プロジェクトの取組を中心に提言
- ・道教委指定「学校力向上総合実践事業」にかかる中学校区4校での取組や釧路市内共通の取組（パワーアップ週間、家庭学習計画表の活用、読書週間の設定、ノーメディアデーの設定）を提示
- ・プロジェクト開始に当たっての各中学校区での準備委員会の設置等組織体制の整備
- ・各中学校区の実践（中学校区下特別支援学級交流会、9年間を見通した学習習慣・生活習慣一覧表の作成と実践、参観日交流会、中学校生徒会による挨拶運動の実施、中学校教員の乗り入れ授業の実施、小学校相互が連携した地域人材を活用したキャリア教育にかかる活動の実施等）を紹介
- ・9年間の義務教育機関を一つの学びの場として捉え、効果的な指導体制を整えていく取組であるとし、円滑な接続を目指して学力向上や生徒指導上の課題解決に向け動き始めていることを強調

### (3) 質疑応答…コロナ対策で開催規模縮小のため協議は行わず、チャットによる質疑応答のみ

- ・全体にかかる質問はなし
- ・提言に係る感想等  
両提言ともに時・全国及び道内の教育動向を知ることで、新たな知見をもつことが出来た。  
二つの提言から、各校長会の取組状況や、それらから明らかになった児童生徒や各校の現状を知り、今後の学校経営や校長会として協働的に取り組むことが明確になった。
- ・オンライン開催となったが、特に問題は無くスムーズに進行することが出来た。今後は、コロナの感染状況に左右されることなく、遠方からの移動を伴う集合研修の是非や、小グループに分かれた分科会の重要性なども鑑み、開催方法を検討する必要がある。

## 2 閉会式 なし